



外観北西面

現代の医療建築 No.177 とやまPET画像診断センター 官民共同出資による全国初のPET／CT検査施設

中日設計株式会社 清谷 英広

(日本医療福祉建築協会会員)

とやまPET画像診断センターは、富山県全域の医療機関が、がんの診療や健康診断にPET／CT検査を共同利用することを目的に開設されたPET／CT検査専門の施設です。施設の設立には多額の費用を要するため、富山県・各市町村・地元企業の官民共同出資による整備という全国でもはじめての取り組みとなりました。

敷地は、県中央部にある富山県健康増進センターの隣接地です。周囲は田園が広がるのどかな雰囲気を残しています。県内全域からのアクセスのよさからこの地が選ばれました。設計のテーマは「リラックス」と「スピーディー」。

がん検査の受診者は少なからず不安を抱えています。暖かみのある優しくプライバシーに配慮をした空間づくり、そして、長時間にわたる検査をスムーズに行うことのできる機能的な高い建物を目指して計画を進めました。

限られた敷地条件から、建物は、一階をエントランスとRⅠ管理区域、二階を受付待合・更衣・問診と管理部門の二階建ての構成にしました。RⅠ管理区域を一階に完結させることで安全かつ効率よく運営できる施

とやまPET画像診断センターは、富山県・各市町村・地元企業の官民共同出資によって開設された。県民のがんによる死亡率が全国平均よりも高いにもかかわらず、県内にPETを保有する施設が少ないことから、全国初の取り組みとして実現したもので、県内外から大きな注目を集めている。



西面ディテール



1階エントランス



2階エレベータホール

設にすることができます。

PET検査の流れは、【一階】エントランス(入館)→【二階】受付・更衣・問診→【二階】薬剤注射・待機・撮影・回復→【三階】更衣・面談→【二階】エントランス(退館)を一般的なフローとして想定しています。所要時間は約四時間です。この検診の流れをスムーズに行うために二台のエレベータを用意しました。一台は一階エントランスホールと二階受付を結ぶ一般用のEV、もう一台は検診着用時の専用EVとしてプライバシーに配慮をし、安心してご利用いただける施設を目指しました。

一階エントランスホールは、北西側に大きなガラス面のある伸び伸びとした空間とし、吹抜けを通じて来館者を二階へと自然に誘導します。検診の前後にすこしていただく二階の待合ラウンジからは、緑化テラスの向こうにのどかな田園地帯が望めます。受診者がリラックスをして、少しでも不安を柔らげていただけるように心掛けました。

インテリアについては、共同利用施設という特性から、どなたにも広く好まれるデザインを目指し、立山連峰をモチーフとしたエッチングガ



2階テラス



2階ラウンジ廊下



2階女性更衣室



2階ラウンジ

とやまPET画像診断センター

所在地 富山市蜷川373
 建築面積 1,024.04㎡
 延床面積 1,761.51㎡
 階数 地上2階
 建築主 とやま医療健康システム株式会社
 開設者 医療法人財団 とやま医療健康センター

ラスの壁面や、明るい木目とアースカラーを基調とした優しい色合いでまとめました。そのなかで、エントランスから受付・待合・更衣にかけては、外光と間接照明を用いた明るく柔らかな雰囲気ゾーンとしました。一方で、検査時に長時間を過ごす待機室・回復室は、照度を落とし受診者の方の相互被曝をさけるための防護壁で区画し、プライバシー重視のゾーンとし、安静にお待ちいただくことを考えました。

RI管理区域については、受診者移動の動線と職員専用の動線とを明確に分け、スムーズかつスピーディーな検査を行うことで、利用者にもスタッフにもストレスの少ない施設づくりを心掛けました。



1階PET/CT室



1階検査前室



2階男性トイレ



1階待機室

「富山型がん診療体制」の一環として より多くの県民をがんから守りたい

医療法人財団とやま医療健康センター とやまPET画像診断センター センター長

宮内 勉

富山県におけるがんによる死亡者は、全国平均と比較して多い傾向にあります。また、県内のがん診療連携拠点病院は八施設ですが、ほとんどが市町村立もしくは公的病院であり、当センターが設立されるまで県内のPETを有する施設は三施設のみでした。

このような背景により、「富山型のがん診療のモデルを作る」「がん診療をしっかりとやっていく」という考えから、「どこの医療機関にも属さない、集中利用できる施設」として当センターが設立されました。

がんの転移や再発を確認する検査のために来られる方々は、不安な状態で来られます。そのため、不安感を少しでも和らげるために、やさしさや癒しを提供できるように設計としました。また、一人当たりのスペースを充分に確保するよう努めています。

一方で、検診目的で来られる方々は、従来の人間ドックと比べると単価が高くなることから、医療消費者という観点により、高級感を醸し出

せるような工夫も行いました。おかげさまで、利用された方々からは、「ゆつたり受診できた」など、好評をいただいております。

私自身は、動線などに改善の余地があるとは考えていますが、計画から竣工まで二年弱という時間的制約があったなかで、とても工夫できていると感じています。

PET/CT検査は、がんの鑑別診断・転移診断・再発診断などに威力を発揮します。「がん診療にPET/CT検査は欠かせない」という認識を県内の先生に共有していただき、当施設を存分に利用していただきたいと考えております。

がん発見率の全国平均は約一・三%ですが、当センターでは約二%です。当センターの検診でがんが疑われた場合、タイムリーにがん診療連携拠点病院など適切な医療機関に紹介し、迅速な対応が成された結果と考えています。今後もPET診療を通して「富山型のがん診療」に貢献し続けることが当院の使命と思っております。